

2023年度一般社団法人小平青年会議所
第40代理事長所信

『レベルアップしよう』
～魅力あふれる人・街・未来の為に～

宮崎 仁嗣

【はじめに】

青年会議所が「明るい豊かな社会」の実現を目指す団体として、アメリカのミズーリ州、セントルイスにて誕生したのは1915年。今から一世紀以上前の事です。その69年後の1984年に、この小平青年会議所は誕生しました。設立時より今日に至るまで、諸先輩方が多くの運動と苦勞と共に、小平青年会議所という土台を築き上げてくださいました。この青年会議所という土台は、地域の皆さまの有形無形の様々なご支援により、より強固なものとなり、今日まで存続できております。皆さまのお蔭をもちまして、今年小平青年会議所は40周年を迎えることが出来ました。先ずをもって、これまで活躍されてきました先輩方、そしてご支援をくださいました地域関係団体の皆さまに、心より感謝を申し上げます。

小平市は首都東京の一角に位置しますが、元々は人が寄り付かない無人の荒野でした。1656年、明暦2年に玉川上水と、そこから分水された野火止用水が出来上がり、その翌年の小川九郎兵衛の出願によって、小川村としてこの地の開拓が始まりました。当時このあたり一帯は、逃げ水の里と呼ばれるほどに水が無い土地でしたが、彼らの開発により土地は拓かれていきました。今の私たちの生活は、彼らに続く、多くの人たちによる不断のチャレンジの上に成り立っています。小平青年会議所の創立宣言文の中には「先人たちの逞しい開拓者精神を受け継ぎ」という文言があります。小平をより良い街にする為にも、小平青年会議所はこの開拓精神を忘れず、これからもチャレンジを続け、組織も、参加するメンバーの一人一人もレベルアップを継続していかなくてはならないと考えます。青年会議所は挑戦の組織です。挑戦をしたならば、その結果を糧として成長していかなければなりません。この1年、小平青年会議所は新たなチャレンジを続け、より地域に根差し、地域を良くし、共にレベルアップしていく年となる様、運動を推し進めていきます。

【「好き」も「嫌い」もあるのが多様性】

ここ数年、様々なメディアで多様性に関する問題が話題になっています。その中心となるものは性自認、性的嗜好、人種に関わる問題や、障がいについての話が多いように感じられます。しかし多様性とはそれだけではなく、経験や趣味や嗜好という、文化的な違いを内包するということも含まれます。そしてそれらは、時代とともに変化していきます。例えば、昔と比べて日本に移住する外国人は多くなりました。また一昔前では、世間受けが良くなかった趣味でも、今では当たり前に入れられているものもあります。違いを恐れて、距離をとるのではなく、むしろ自分と背景や考え、趣味嗜好の違う人たちと交流をする事により、それまでにない刺激や気づきを生み出すことができます。これは新しい考え方や文化、つまり新たな多様性を生み出すことに繋がっていきます。それには、自分以外の誰かが好きなものに対しての、リスpek

トが大切なのかもしれません。

「好きこそものの上手なれ」という言葉があります。好きという感情は何かを為すに、大きな原動力となります。そして、他人の好きを尊重し合える人たちがたくさん集まれば、それは社会も動かす力となります。そして世の中には、自分が好きなものを嫌いな人もいますが、時には「嫌い」という感情も何かを作り、変える原動力となります。いろんな「好き」と「嫌い」がある事を内包するのが多様性のある社会だと考えます。

同時に、「嫌い」な物事への対峙の仕方、「嫌い」という感情の伝え方も重要です。「嫌い」というのは攻撃性をはらむ強い感情です。実際の問題として、「嫌い」という感情を元に他人を攻撃し排除しようと、ヘイトスピーチやフェイクニュース等の形で情報を発信する人が増えています。そういった情報を知ってしまった時、大人でさえその情報にのまれ流されてしまう事があります。それが子どもへ向けられたら、大人以上に強く影響を受けるでしょう。嫌いな人や物は攻撃していいと思うかもしれませんが。仲間外れにならない様に、心を偽り「好き」を言えなくなるかもしれません。それは多様性のある社会から離れる事になります。未来を作るのは、若者や子供たちです。彼らが自分の「好き」を互いに伝え、良い影響を与え合いながら育つ環境を整えていくのは、我々大人の役目です。若者や子どもたちが、自分らしく生きやすい、多様性が当たり前の社会へと進んでいく為に、多様性について子供も大人も学べる事業を行います。

【防災と減災と地域協働】

令和4年5月に、首都直下地震が起きた場合の新たな被害想定が東京都より出され、話題になりました。それによりますと、首都直下地震は南海トラフ巨大地震と同様に、30年以内に70%程度の確率で起こると予想され、その時の小平市は、震度6前後の揺れが発生すると想定されております。東京都全体で避難者は約300万人、帰宅困難者は約450万人になると考えられています。

そして今年は関東大震災より100年目を迎えます。地震は一度起きれば、大きな被害をもたらします。いつどこで起こるか、直前まで予測は出来ない為、常に備えは必要です。そしてここ数年は、大雨により冠水や河川の氾濫、土砂災害、竜巻、突風など様々な風水害が以前よりも多く起きています。東京都も令和3年に風水害の被害想定をだしており、小平市においても、一部地域では浸水・土砂災害の可能性があり、ハザードマップが作成されております。また都市部であっても、降った雨が河川等に排水できずに内水氾濫が発生しております。昨今の大雨をみるに、武蔵野台地に位置している小平でも、冠水や浸水の心配をしなくていいと、言い切れなくなってきていると私は考えます。

危機管理を考える際には最悪を想定し、悲観的に準備をしろと言われております。それは想定外の被害を減らすためです。災害も多様化し、求められる対応も増えてきております。今後は被災時も救助を待つだけでなく、地域のコミュニティーや団体が協働し、能動的に救助支援に動き、一早く立ち直れるよう、地域全体で備えていく事が大切だと考えます。小平市がより災害に強い街へレベルアップする為に、防災と減災について新たな知見を得て、体験し、実践すること。そして様々な垣根を越えて地域全体で協働していくという機運を高めていける運動を促進する事。それを小平青年会議所が40周年を迎え、奇しくも関東大震災から100年目となる今年に、周年事業として取り組んでまいります。

【憧れの存在となろう】

我々小平青年会議所は、これまで様々な地域活動を行い、地域の皆さまに我々の運動へご理

解をいただいてきました。お蔭をもちまして、青年会議所が運動を行う土台は、今年まで崩れることなく続いてきました。この土台を崩さない為にも、青年会議所は格好よく、周囲から憧れられ、信頼される存在であり続けなければならないと考えます。

人は意外に他人の行動を見ています。街中で知り合いを見つければ、ついつい何をしているのか見てしまいます。また防犯カメラなど、人以外の目にも行動は映ります。昔ならば「お天道様が見ている」といいましたが、例会や事業の場以外でも、我々の行動は青年会議所の評判に繋がる可能性があります。

そのような時、大切になってくるのは見た目です。この場合の見た目とは、服装、表情、行動、話し声のトーンや大きさなどです。普段これらを意識する事は、あまり無いかもしれませんが。しかし、スーツには綺麗に着る着方がある様に、よく話を聞いてもらうにはコツがある様に、知識があれば自分の見た目を一段上に引き上げることができます。それらの知識は歴史と経験に裏打ちされているからこそ現在にも存在しており、それを修め、格好よくあり続けるには相応の努力が必要となります。努力の末に身に付けたものは自信となり、自信は見た目に現れ魅力となります。人は魅力がある人の所に集まります。メンバー一人一人、それぞれが思う形で、より魅力的にレベルアップしていく為に、この1年、修練を積み、自身を磨いていける事業を行います。

【広報とは拡大である】

我々はこの地域が良くなるようにと、メンバー同士様々な意見を交わし、時間をかけ事業を構築しております。しかしどんなに素晴らしい運動を起こしても、どんなに魅力的な人物がいても、それが伝わらないことには、他者を巻き込む運動へと繋げていくことは叶いません。我々の運動が広く地域に伝わり、様々な場所へ波紋を広げるには情報を発信し続ける事が大切です。

現在も小平青年会議所の運動を知ってもらうためにホームページや Facebook 等がありますが、それらを十分に活用しきれていないといえませんが、今まで以上に多くの人に知ってもらえるよう、特に若い世代に我々の運動が届くよう、内容の充実等を図ります。またインターネット以外での広報手段や、今後出てくるであろう新たなツールも積極的に活用し、我々の運動をより多くの人に伝え、共感を得ることが拡大への道に繋がると考えます。情報を発信し続ければ多くの人目に留まります。1回だけではメッセージが届かないこともあるかもしれませんが、2回、3回と目にする事で興味を持ってくれる人が現れるでしょう。我々を知るための間口を広げ、仲間を増やす為にも広報活動に力を入れたいと考えます。

【結びに】

「情けは人の為ならず」これは、私の好きな言葉の一つです。この言葉は、人に情けをかけると巡り巡って自分に返ってくるという意味です。日々の仕事でも、結果誰かが喜んでくれたなら、自分も嬉しいものです。青年会議所での活動も同じです。切っ掛けは世の為人の為でも、巡り巡って最後は自分が成長する糧になります。青年会議所の三信条に「奉仕」、「修練」、「友情」とあります。私はこれを、他者や地域、公の為に「奉仕」し、自分を磨き上げる「修練」の機会とし、それらに真摯に仲間と共に取り組む事を通じて、一生の「友情」を育む、という意味だと理解しています。これはまさに「情けは人の為ならず」ではないでしょうか。

魅力ある人のもとには人は集まるといいます。人が集まれば組織は、街は大きくなります。その為にもまずは、我々個々の会員が修練を経て成長し、より魅力的な人間にレベルアップしていかなければなりません。会員がレベルアップすれば、それは所属している組織のレベルアッ

プにもつながり、組織がより強固になります。さらに、地域住民の方々はもちろん、町内会や自治会、その他様々な街づくりの団体やコミュニティーと手を取り協力することで、活動の幅を広げられ、我々の運動を知る人が増えれば、仲間も増えていきます。そして増えた仲間が成長し、新たに地域の為に活動をする。それはこの小平市がより住みやすく、より魅力あふれる人々が住む街へとレベルアップしていくことに繋がる事でしょう。

冒頭にも述べましたが、これまでの40年間の間に、諸先輩方が積み上げてくださった土台の上に現役の私たちはいます。次の10年、20年、100年先の後輩たちにこの土台を引き継いでいき、またカッコよく誇れる街を残していかなければなりません。これからの一年、私たちは「レベルアップしよう」この言葉をスローガンとし、今日より明日、明日より明後日、一歩ずつでも、我々が成長していく事が地域の為に、人の為になると信じ、青年会議所運動に邁進していく事をここに宣誓します。どうぞ、1年間よろしく願い申し上げます。

以上